保育の振り返り

社会福祉法人遍照会 東大沢保育園（埼玉県）

これまでの保育を振り返り、職員皆で課題を見出し、保育の転換をはかろうとする保育園。保育者一人一人の思いが交差する中で、子どもの思いに焦点を当て、子どもたちが遊び込む大切さを感じ、ねがいを実現していこうとすることで、遊びの経験を軸にしたサイクルが生まれてきます。園全体で、「科学する心」を事例と関連づけ捉えていくと、同時に遊びの重要性も見出されていくようになります。

『保育ラボ』でのエピソード共有と検証

これまで毎月行っていた職員研修の場に、保育士の挑戦したいことや、保育の中でのエピソードを共有、検証する時間を増やした。
ラボという名前は Laboratory（研究所）というところから名前をもらい、『日々のちょっとした出来事も実験、研究していこう!!』という思いから制定している。
若手、ベテラン関係なく自分の意見を言える場があることで、今までの受動的な研修から、職員ひとりひとりの、能動的な発言や参加意欲が見られると共に、相手の思いを受容したり、自分の思いと重ねたりすることで、楽しい化学反応が起きた。

東大沢保育園　『思いから溢れる　たからもの』
～科学する心に視点を置いて～（令和４年度）

«科学する心とは»
子どもが心身ともに安心で安全な生活の中で、子どもと子どもを取り巻く環境（物的・人的・社会）が一体となり、子ども自身が環境を創造していく過程の中、積極的にその環境に働きかける姿や、その環境の中で子どもが教え込まれたものではなく、自ら獲得した知識や技能を充分に表現しながら自信を持って行動しようとする姿の事であると考える。

«共有する思い»
子どもの『思い』から始まる行動のサイクルの中で、専門性を用いながらエピソードの共有を行い、（保育ラボ活用）子ども自身が想像し、創造できる環境を整えていく事や、保育者自身が温かい子どもの環境のひとつとなり、子どもを取り巻く様々な環境（物的、人的、社会）の懸け橋となることが、学びへと向かう力と、豊かな人間性を育むことと考える。

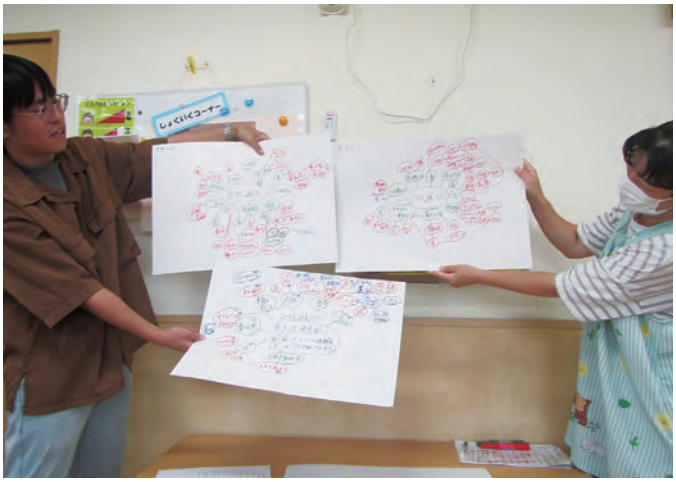
«子どもの思いを中心に»

①行動
・言葉、表情、態度の記録を行い、子どもの思いについて職員同士検証する。
・保育士の価値観や判断ではなく、子ども自身の思いに留意し、禁止や制限ではなく、『できること』を探していく。

②経験
・一方的に教え込むことや、禁止、制止の中での経験は、行動の弱化に繋がると考える。
・『うまくいかない』という経験を簡単には奪わないようにする。
・視覚的に子ども自身が経験したことの振り返りができるようにする。

③知識・技術の主体的獲得
・保育士も一緒に考えたり、対話する中で、子ども自身が、発見したり試行錯誤したりした過程を認めていく。
・子ども自身が手を触れたり、使用したりできる環境を整える。
・専門的な知識を用いながら、園内外の環境と連携していく。

④思考、判断、表現
・子ども自身の世界観や表現を壊さないようにし、安全の配慮を充分に行いながら指示や注意は必要最低限とする。
・子どもの思いやその表現を肯定的に認めていく。
・子ども自身が気付くことを大切にする。



職員間で共有したこと（一部抜粋）

●子どもの思いを（言葉、表情、態度）大切にし、逃さないようにすることで、自然とひとりひとりの気持ちに寄り添いながら、禁止や制止の言葉ではなく、その子の良さを認めながら保育者も一緒になってイメージを共有する事や作り上げていく事、目標へ向かうことを楽しみながら行う。

●子ども自身が遊びこむ時間や、友達との関わりの時間を大切にするよう心掛けることで、遊びが途切れず、自分たちの興味を深めたり、協力したりしながらイメージの共有を図ることが出来るようにする。

●保育ラボも含んだ、職員間の子どもの『いま』の姿の共有の機会を増やし、子どもを取り巻く環境が自分のクラスだけでなく、園全体、保護者や地域社会にまで広がるよう働きかける。

先生に聞いてみました

園内で毎月行っていた『保育ラボ』を園内研修という形から、日々の保育の振り返りやエピソード共有等、職員ひとりひとりが思いを表現できる場へと変革しようと考えました。
変革の当初は、他の職員の前で、保育の思いを発言することに対して、緊張や不安が見られましたが、子どもの様々な思いや子どもの思いから始まる行動サイクルを視覚的に分かりやすく図にし、保育ラボの時間だけでなく主体的に記録した保育のエピソードを持ちより、意見を引き出すことで、保育者同士の対話が生まれ『たったひとりの保育』から『園全体の保育』へと変わってきたように思います。

子どもの姿や思いを共有することで今まで想像の中で『できない』と感じていたことも『どうしたらできるか』という考えが広がり、その職員の姿を見た子どもたちが、自分たちの夢を叶える新たな計画書を作成する姿も見られています。
「科学する心」の視点を持ちながら保育者の願いと子どもの思いを融合していく日々が展開されています。
思いを共有しあえる保育ラボも進化を続け、ファシリテーターを設置することで思いを集約し、子どもの思いから溢れる思い（夢）を現実に叶える日々が職員の大きな喜びとなっています。

↓論文全文はこちら

子どもの思いから溢れるたからもの
～地域の特性を活かし、
対話を通して得られるもの～